



統合報告書
2023

グループ企業理念

社会資本を良好な状態で 次世代に引継ぐ

との使命感のもと、
メンテナンス業界のトップランナーとしての
高度な技術開発力で、
豊かで安全な社会の実現に貢献する。

「造らない建設会社」

創るのは社会インフラの未来です。





統合報告書

2022.7.1-2023.6.30

編集方針

ショーボンドグループは、2022年（2022年6月期報告）より、さまざまなステークホルダーの皆様当社グループの事業と価値創造をご理解いただき、持続的に成長する姿をご覧いただくために「統合報告書」の発行を始めました。

編集にあたっては、IFRS財団が公表した「国際統合報告フレームワーク」、および経済産業省が策定した「価値協創ガイダンス」を参考にしています。なお、当社Webサイトでは、より詳細な情報およびニュースリリースなどの最新情報を随時更新・公開しています。

対象期間

2023年6月期（2022年7月1日～2023年6月30日）
ただし、発行時点での最新の情報も可能な限り記載しています。

対象組織

ショーボンドホールディングス株式会社および連結子会社・関連会社

発行年月

2023年12月

将来見通しに関する注意事項

本レポート記載の計画、予測、戦略などは、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により異なる可能性があります。

CONTENTS

- 01 グループ企業理念
- 03 編集方針／目次

ショーボンドグループとは

- 04 At a glance
- 05 事業フィールド
- 07 創業者の信念
- 09 ショーボンドの歩み
- 11 総合メンテナンス体制
- 13 事業環境
- 15 マテリアリティ
- 17 価値創造プロセス

経営戦略

- 19 トップメッセージ
- 25 中期経営計画
- 27 CFOメッセージ
- 29 財務・非財務ハイライト

事業戦略

- 31 営業本部
- 33 東日本カンパニー
- 34 西日本カンパニー
- 35 技術本部
- 37 工事本部
- 39 補修工学研究所
- 40 つくば研修センター
- 41 保全技術株式会社／キーナテック株式会社
- 42 ショーボンドマテリアル株式会社
- 43 海外事業

成長を支える基盤

- 45 ショーボンドのサステナビリティ
- 47 環境への取り組み
- 49 人材育成・職場環境への取り組み
- 51 特集：ショーボンドの社員研修
- 53 安全衛生への取り組み
- 57 コーポレート・ガバナンス
- 61 リスクマネジメント
- 62 コンプライアンス

企業情報

- 63 11カ年データ
- 65 会社概要・株式情報

At a glance

ショーボンドグループは、創業以来、一貫してインフラ構造物の補修・補強に特化した事業を行ってきたメンテナンス業界のトップランナーです。

従業員数：985名（連結） グループ会社数：18社

KEY FIGURES



(2023年6月末時点)

事業フィールド

多様なインフラ構造物を補修・補強することで、
持続可能な都市づくりへ貢献します。



港湾施設

塩害から守る
コンクリートの劣化を防ぐ



上下水道

腐食から守る



橋梁

地震や災害に強くする
コンクリートの劣化を防ぐ



トンネル

天井や壁の剥がれを防ぐ
地下水の漏れを止める



道路

道路の「継ぎ目」を直す
騒音を防ぐ



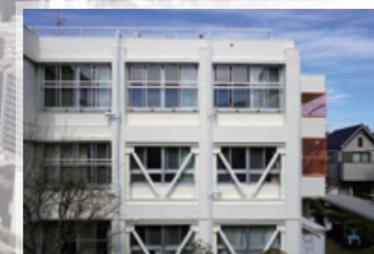
鉄道

高架の傷みを直す
地震や災害に強くする



農業用水路

ひび割れを防ぐ
磨り減った壁の水漏れを防ぐ



建築

地震や災害に強くする



サイロ

壁面の劣化を直す

創業者の信念

変化こそ 進歩なり

社 是

- 一、 熟慮して決断
- 一、 行動への責任
- 一、 統一ある職場
- 一、 社会への貢献

当社グループの「社是」は、1979年（昭和54年）6月、当時社長の上田昭が制定し、創立21周年記念の全国会議（全社員参加）で発表されました。新社是発表の場において上田は、社員が決断するときは「会社の利益が基準」であり、なぜなら、会社の利益なしに社員の幸福はあり得ないからだと説明しました。

その後40年以上の時を経て会社も上場企業として定着し、幸福になるべきなのは社員のみならず、株主や取引先等も含めたすべてのステークホルダーとなりました。また、企業に対する社会の期待も、高い収益は当然として、健全な企業統治や内部統制、透明性、倫理性など、幅広いものになっています。

制定時の思いと現代的な意義とが相互に響き合い、社是は今日まで通ずる当社グループ全役員職員の行動原理となっています。

この言葉は、創業者・上田が会社経営において掲げていたスローガンの一つです。

上田は社員への呼びかけに際して何度もこの言葉を用いながら、高い目標のもと、たゆまぬ改善努力を続けることで発展していくことの大切さを説きました。

**私は「変化こそ進歩なり」という言葉が好きだ。
何事も平穏無事な状態が永遠に続くことはありません。
変化があるから苦労もあるし進歩もある。
環境の変化に対応し体質転換に成功した企業のみが、
この競争社会で生き残ってきたことは
歴史の証明するところである。**

平成2年1月 年頭所感より抜粋



1972年 全国部次長会議で演説する上田

創業40周年記念誌の冒頭で、上田は創業からの日々を振り返り、次のようにも話しています。

「この40年間、私は常々、会社に関しては『望みが高い』ことを要求し実践してきた。言い替えば高い目標をたて、それを実践するため『変化こそ進歩なり』『会社の利益が基準である』この二つの実行スローガンのもとに、私自身も歯を喰いしばり諸君らにも叱咤激励してきた。」

こうした上田の信念により、当社グループは社員5名の町工場からインフラ構造物メンテナンスのトップランナーへと発展を遂げることができました。

**創業者が大切にしていた進歩への情熱を胸に、
当社グループはこれからも挑戦を続けていきます。**

ショーボンドの歩み

1958~

化学技術と土木技術の融合

1958年6月4日に「昭和工業株式会社」として設立された当社は、塩ビ部材の特殊工事からエポキシ樹脂によるコンクリートの補修性能に着目し、「土木工事向け合成樹脂接着剤」という新たな市場を開きました。

1964年、夏の新潟地震で被災した昭和大橋の復旧工事で当社のコンクリート補修工法の有用性が証明され、構造物メンテナンスのエキスパートとして歩み始めます。1965年3月には、日本道路公団と共同で開発し特許出願した道路橋伸縮装置「カットオフジョイント」の試験施工を実施、その後高速道路建設の波に乗り、全国各地で施工されました。



1964年 新潟地震で被災した昭和大橋

1975~

総合メンテナンス体制の黎明

1975年、会社を「ショーボンド建設株式会社」と「ショーボンド化学株式会社」に分離し、特殊工事会社として成長を目指す路線を明確化しました。

1977年には中央技術研究所を新設移転し、化学技術と土木技術の融合で新製品・新工法を開発する「技術のショーボンド」の充実を図りました。

こうした組織体制の変革により、技術開発から工事材料の供給、施工までをワンストップ・フルスペックで行う「総合メンテナンス体制」の土台が形成されました。



1977年 大宮市に完成した中央技術研究所

売上高の推移



1995~

阪神淡路大震災と耐震補強工事の急拡大

1995年1月17日、阪神淡路大震災が発生。多くの人命が失われるとともに、高速道路の高架橋が倒壊するなど、社会インフラにも多大な被害を及ぼしました。一方で、震災直前に当社が補強を施していた橋脚には被害がなく、当社の耐震補強工法が注目されました。この大災害の教訓を踏まえて日本各地で耐震補強工事の需要が急増し、当社の業績も拡大しました。

さらに、1996年夏に完成した補修工学研究所（茨城県つくば市）において耐震デバイス関係の開発に注力し、「緩衝チェーン」などの新製品が生まれました。



1995年 震災直前に完成した橋脚補強箇所には被害はなかった



2018年 高速道路リニューアル工事の様子

2011~

未曾有の大災害を経てインフラメンテナンスの時代へ

2010年代以降、複数の大規模災害や事故を経験した日本では、構造物の耐震補強や老朽化対策の重要性が一層高まっており、社会資本メンテナンスの枠組みに基づいて全国各地でメンテナンス工事が行われています。

2011年の東日本大震災の後、国土強靱化基本計画に基づく取り組みが推進されており、現在は2021年度に開始した「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が進行しています。

また、2012年の管子トンネル天井板崩落事故以降、国内のインフラ老朽化対策が急務となり、政府が策定したインフラ長寿命化基本計画に基づき、高速道路リニューアルプロジェクト（2015年度～2030年度）が進められています。

当社は、そうした事業環境の変化に対応すべく、東西カンパニー制への移行や協力会社との密な連携による受注・施工体制の増強、新技術の研究開発に加えて、それを支える人材育成や安全文化創生等の基盤強化に注力することで、市場の拡大とともに業績を伸ばしています。

2019~

海外への挑戦

2019年4月、当社は三井物産株式会社と合弁会社「SHO-BOND & MITインフラメンテナンス株式会社」（SB&M）を設立し、メンテナンス事業の海外展開を始めました。インフラの老朽化が深刻化しつつある海外において、当社の技術を展開し、課題解決に貢献することを目指します。

2020年にはタイの複合企業サイアム・セメント・グループ（SCG）傘下のCPAC社との合弁会社「CPAC SB&M Lifetime Solution Co., Ltd.」を現地に設立したほか、2023年7月には、米国のインフラ補修事業者Structural Technologies, LLCへ出資しました。



2020年 タイCPAC社とのオンライン調印式



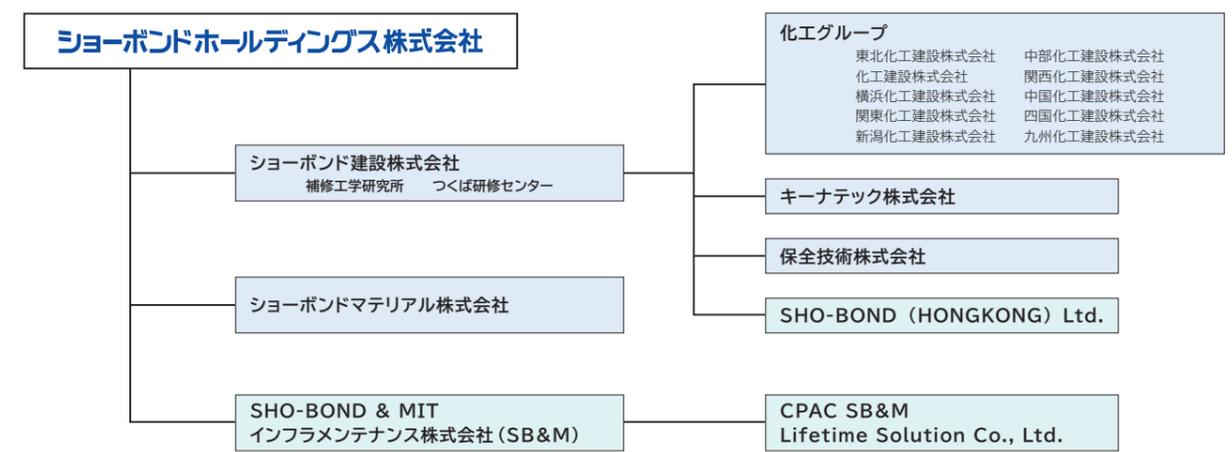
2023年 米国ST社との調印式

総合メンテナンス体制

ショーボンドグループは、橋梁をはじめとする社会インフラの補修・補強を専門とする、「総合メンテナンス企業」です。建設会社としての設計・施工を軸に、材料・工法の研究開発、さらには開発された材料や工法の製造や販売まで、社会インフラのメンテナンスを幅広くサポートしています。国内随一かつ屈指の総合メンテナンス体制。これがショーボンドグループの特色であり、強みです。



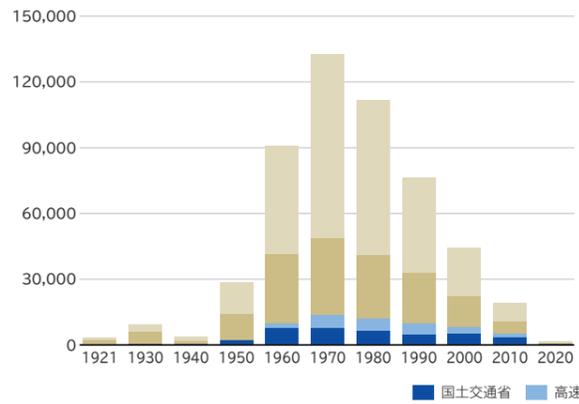
グループ組織図



事業環境 ～加速化するインフラの老朽化～

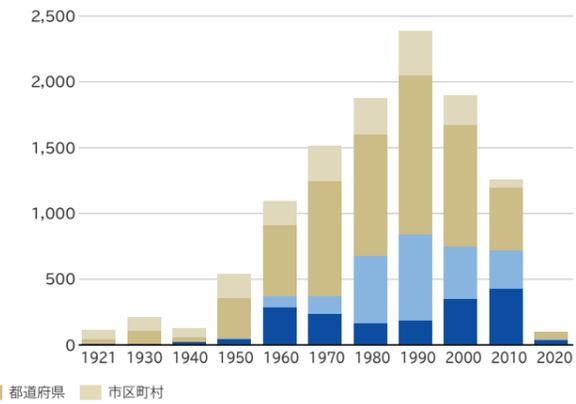
国内インフラの多くは高度経済成長期以降に整備されており、今後その老朽化が加速度的に進行することが見込まれています。この社会課題の解決のため、インフラを適切に維持管理・更新するための計画策定や、長寿命化対策などの対応が全国各地で進められています。

建設年代別「橋梁数」 合計 約52万橋 平均年齢 44年 (2023年時点)



※道路管理者別の管理施設数 ※上記の他に、建設年不明の橋梁が約21万橋、トンネル約300本 ※国土交通省資料より当社作成

建設年代別「トンネル数」 合計 約1万本 平均年齢 36年 (2023年時点)



※国土交通省資料より当社作成

高速道路リニューアルプロジェクト

【現在の状況】



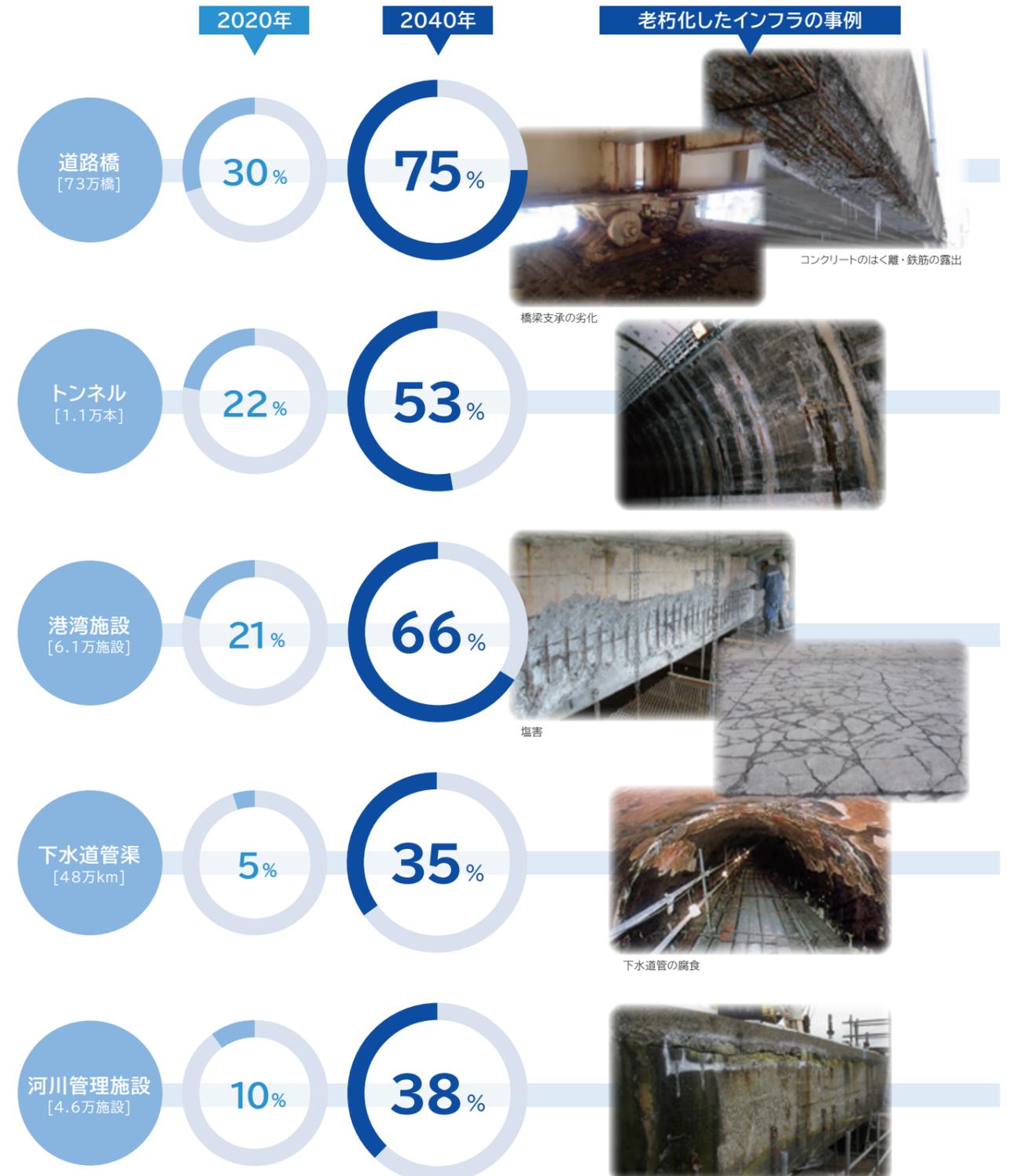
※社会資本整備審議会資料より当社作成

【総延長に占める更新計画の割合】



※社会資本整備審議会資料より当社作成

建設後50年以上経過するインフラ構造物の割合

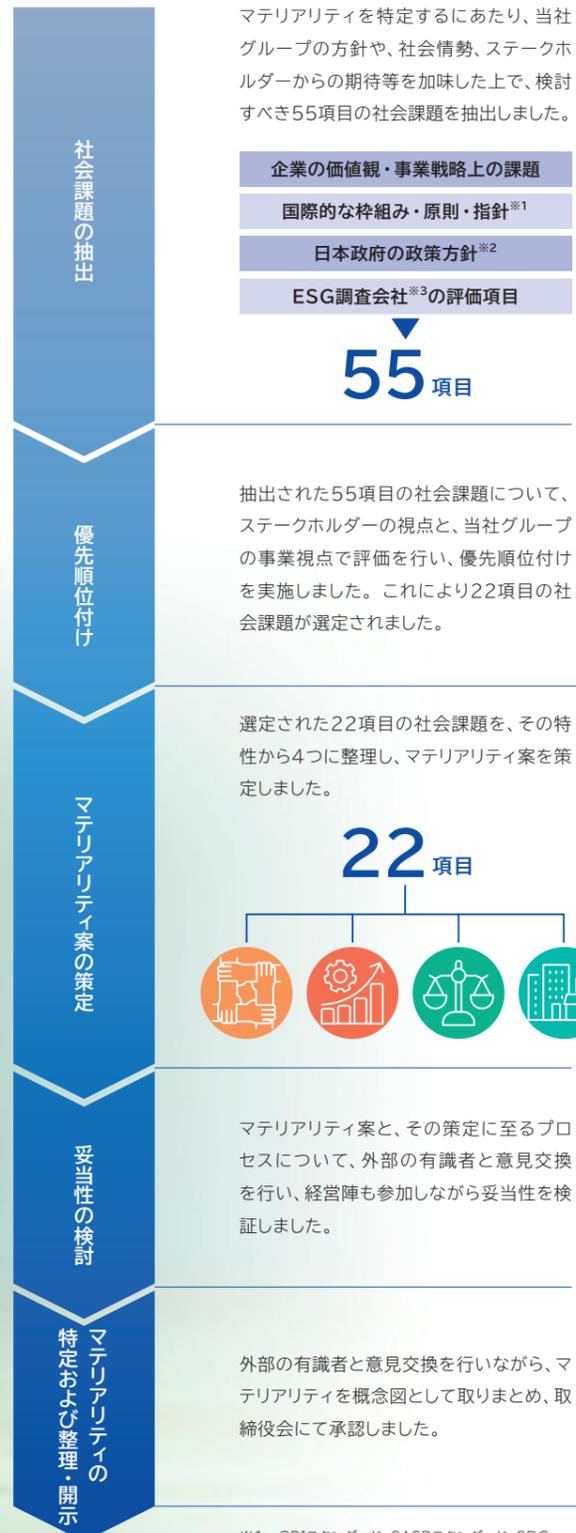


マテリアリティ

当社グループは、社会情勢やステークホルダーからの期待を踏まえ、4つのマテリアリティを特定しました。マテリアリティとは「重要課題」のことであり、当社グループが社会課題の解決と企業価値の向上を両立させながら、ステークホルダーとともに持続的に成長していくために、優先的に取り組むべき課題を示したものです。これからも事業活動を通じてこれらのマテリアリティに継続的に取り組み、中長期的な企業価値向上と持続可能な社会の形成に貢献していきます。

マテリアリティ特定のプロセス

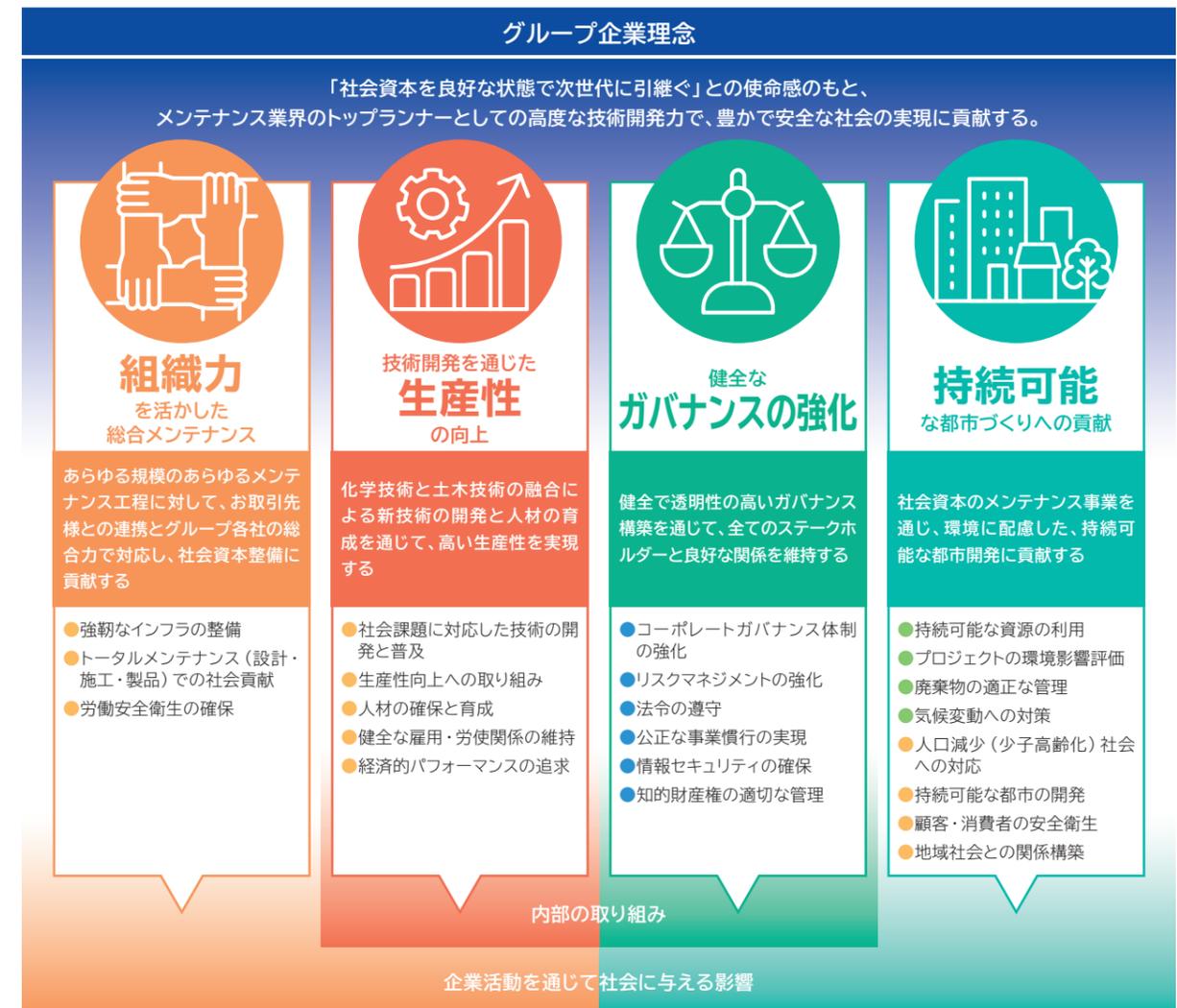
当社グループは2020年4月、従業員や経営層、社外の有識者も参加し、マテリアリティを特定しました。今後は社内外のステークホルダーの意見を踏まえながら、推進体制の整備や施策の検討、定期的なレビューを実施する等、マテリアリティに関する取り組みを強化していきます。



※1：GRIスタンダード、SASBスタンダード、SDGs、ISO26000、国連グローバルコンパクト10原則、OECD多国籍企業行動指針等
 ※2：国土交通省の公共事業に関する政策の方向性等
 ※3：MSCI、FTSE、Robeco SAM等

マテリアリティマトリックス

マテリアリティを特定するため、「ステークホルダーにとっての重要度」と「事業にとっての重要度」の2軸から社会課題を評価し、マテリアリティマトリックスを作成しました。そして、特に双方にとって重要度の高い22項目の社会課題を、当社



価値創造プロセス

「総合メンテナンス」という独自のビジネスモデルを通して、社会資本を良好な状態で次世代に引継ぐことが我々の使命です。ショーボンドグループは、4つのマテリアリティに継続的に取り組むことで、社会課題の解決や経済価値の創出と、中長期的な企業価値の向上を両立し、豊かで安全な社会の実現に貢献していきます。

